

# BFSニュースレター

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

2010年3月1日発行

Vol. 10, 第10号

## このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

## 外為証拠金(FX)取引は、バクチです！！

外為証拠金取引とは、個人投資家が証拠金を差し入れてその数十倍までの規模で売買できる為替取引のことです。

為替の短期的な動きを予想することは不可能です。この外為証拠金取引(FX)は大変投機性の高い取引で、やらないことが得策です。

円とUSドルの為替は長期(5年～10年)ではインフレ率や金利差を調整するように動きます。たとえば、1ドル100円として、日本のインフレ率が0%、米国が5%としますと、同じものを買うのに米国では1年後に1.05ドル必要になるのに、日本はまだ100円で買えますから、これを調整するため100円×1ドル/1.05ドル=95.23円になるのです。同じように金利差でもそのような動きをします。為替の理論としては、このような考え方が明らかです。

しかし、外為証拠金取引はずっと短期の利ざやを狙おうとする取引です。わたくしは外為証拠金取引をしたことがないので短期売買にどのような情報を頼りにしているかわかりませんが、想像はできます。

- バーナンキFRB議長の議会証言
- 米国失業率の発表数字
- 日銀白川総裁の講演発言
- 日本のGDP成長率速報数字
- 日銀短観発表
- 米国株式市場の上げ下げ

こういうデータを鵜の目鷹の目のように追うのです。そして誰よりも早く取引しようとしています。しかしこの手の情報は、商社や銀行など世界のプロが追っている情報でもあり、彼らに伍して個人投資家が勝とうと思っても無理な話です。実は、プロでも短期の為替の予想は不可能なのです。

そして差し入れた証拠金の数十倍の取引をしますから、一度思惑と逆の動きをすると証拠金はすっ飛んでしまいます。為替が1日1円、2円動くのはまれではありません。



思惑通りに儲けて「ミスエワタナベ」と世界的に有名になった主婦もいます。世界の金融業者の間でも日本の個人投資家のFX取引は有名で、奇異に見られています。

外為証拠金取引で儲けた利益は単なるまぐれです。たまたまうまくいったものを自分の読みの深さ、研究の賜物と思うのは人間の性ですが、このFX取引の儲けはパチンコ・競馬の儲けと同じです。

外為証拠金取引、君子危うきに近寄らず、です。

## 確定申告で、配当金課税分などの還付

確定申告の時期が来ました。所得税は3月15日までです。そこで、資産運用で払った税金を取り戻せるポイントをいくつか紹介しましょう。

### ・配当金に課税された分の取り戻し方法

-2009年の株式や投資信託の配当金に課税されている場合、同じ年に株や投資信託で売却損が出ているときは、申告して損益通算の上、配当金課税分が取り戻せます。

-翌年以降3年間の損失控除を申告していて、2009年が対象期間の場合には配当金課税分と損失控除分を合算して、配当金課税分が還付されます。

### ・売却益に課税された分の取り戻し方法

-2009年に株式や投資信託の売却益に課税されている場合、同じ年に株や投資信託で売却損が出ているときは、申告して損益通算の上、売却益課税分が還付されます。

-翌年以降3年間の損失控除を申告していて、2009年が対象期間の場合には売却益課税分と損失控除分を合算して、売却益課税分が還付されます。

詳しくは税理士、税務署に相談してください。



## 今月の言葉:

人生というのは結局、人生の意味の問題に正しく答えること、人生が各人に課する使命を果たすこと、日々の務めを行なうことに対する責任を担うことに他ならないのである。

夜と霧 V.E.フランクル



・BFSのミッションは、お客様とパートナーになり、正しく客観的なプランニングとお客様資産の運用を通じて、お客様を人生のゴール達成に導くことです。

・BFSは、金融機関とは完全に独立して、お客様利益最優先の公正なアドバイスを提供しています。

・BFSは、最新で高度な理論や知識、30年以上のグローバルな豊富な経験、強い倫理観で最高品質のサービスを提供しています。

・資産運用サービスやライフプランニング、BFSについてもっと詳しく知りたい方は、左記までお問合せください。

Web サイトもご覧ください  
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒164-0003

東京都中野区東中野4-7-18

岡藤ビル303号

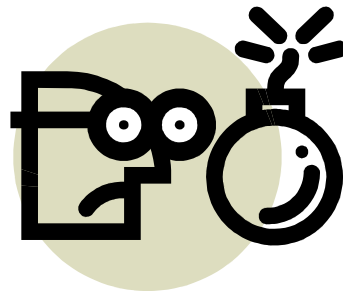
電話：03-5338-9733

携帯：090-4934-3121

FAX: 03-5338-9734

電子メール：info@bfsc.jp

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを—BFSの大切な役割



## ひたひた迫る財政破綻の危機—預金もうかうかできない時代に

国の財政破綻の懸念が確実に増してきています。国や地方の債務残高(一般政府債務)は1000兆円に迫ろうとしています。すでに海外の投資家は国債の売りに転じていて、その売りは加速しています。(海外の国債等保有前年比,2009/1Q-5%,2Q-12%,3Q-19%)

財政破綻すると個人金融資産はどうなるか、これが最大の関心事ですが、預金や現金にしている、大きな影響を受けます。ますます、「備えあれば憂いなし」がキーワードとして、浮かび上がってきます。

郵便貯金の90%(160兆円)は国債になっています。また銀行も110兆円以上を国債に投資しています。これらの原資は皆さんの預金です。日本の金融機関は、国債全体の3分の2を保有しているのです。

2010年の日本の財政状況は、2001年に債務不履行を起こしたアルゼンチンの公的債務残高/GDP、当時の54%をはるかに上回る200%近くになりそうです(OECD)。

財政が破綻するとどうなるか、国債の価格が暴落します。そして、ゆうちょや銀行の国債評価損が急激に経営を圧迫し、金融恐慌

も懸念されます。それが影響するマグニチュードは、想像を絶するものがあるでしょう。預金や現金に置いておいても、安心していられる時代ではなくなりつつあるのです。

いよいよ財政がにっちもさっちも行かなくなったときに政府がどうするか、インフレによる形を変えた増税です。インフレによって政府債務を減らすしかないのです。

政治家は、その責任を選挙で落ちることで取るのでしょうか、重いつけを払わされるのはいつも国民です。

「ねだって配って財政破綻」「バラマキ予算で第二の敗戦」と日経(2010.2.28,P2)で言っていますが、これを現実問題として、自分の金融資産について真剣に考えなければならない時期に来ているといえるでしょう。今はデフレだと、安閑とはしてはいられません。

その「第一の敗戦」の時に、物価は140倍(1945.1~1951.9)にも上昇し戦時公債は紙くずになり、日本の財政は健全化し、高度成長に向かいました。